

令和7年度 関係団体等懇話会

【実施報告書】

目次

1 開催概要	1
(1)実施の目的.....	1
(2)実施方法.....	1
(3)当日の流れ.....	1
(4)参加者	2
2 懇話会の内容.....	3
(1)事前調査の結果概要及び回答について	3
(2)意見交換内容(要旨)	3
(3)各グループの発表(要旨)	10

令和8年3月
安城市

1 開催概要

(1)実施の目的

令和8年度中に次期障害者計画等を策定するにあたり、障害のある人やその家族・支援者等の意見を計画に活かすことを目的とする。

区分	内容	
開催日時	令和8年2月26日(木) 午前10時から正午まで	
開催場所	ハキシんギャラクシープラザ3階 大会議室	
参加者	関係団体	15人(他にガイドヘルプ、要約筆記等支援者3人)
	事務局	安城市障害福祉課 8人
	実施支援	(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 2人

(2)実施方法

事前のヒアリングシート調査を元にしたテーマを設定し、2グループに分かれて意見交換を行った。実施にあたっては、小グループにより、全員が意見を述べ、より多くの意見を集約することができるようにした。

テーマ① 障害福祉への理解を促す啓発活動に関すること

テーマ② 災害時の避難や避難所、避難訓練に関すること

(3)当日の流れ

10:00~10:05	開会あいさつ
10:05~10:15	事前調査の結果概要、及び回答について
10:15~10:20	グループワークの進め方について
10:20~10:55	テーマ①についてのグループ検討(35分間)※自己紹介込み
10:55~11:00	休憩
11:00~11:30	テーマ②についてのグループ検討(30分間)
11:30~11:40	グループごとの検討結果発表(各グループ5分)
11:40~11:45	閉会あいさつ

(4)参加者

団体名	参加者名	グループ
安城市身体障害者福祉協会	釜口 紀子	B
難聴・中途失聴者の会 ともだち	富田 真理	B
安城市手をつなぐ育成会	原 恵美子	B
安城市心身障がい児を持つ親の会 ひまわり会	三戸 夏居	A
安城地域精神障がい者家族会「ぶなの木会」	藪内 敏彦	A
社会福祉法人ぬくもり福祉会	鈴木 博	B
社会福祉法人ポテト福祉会	黒川 久美子	A
社会福祉法人聖清会	山本 典子	A
社会福祉法人観寿々会	牧原 信介	B
社会福祉法人サポートバディ	加藤 領助	A
社会福祉法人ぶなの木福祉会	青木 恒二	B
要約筆記サークルなしばた(安城市ボランティア連絡協議会)	神谷 秀夫	B
視覚部ボランティア心のひとみ(安城市ボランティア連絡協議会)	吉沢 弘子	A
ガイドヘルプ(視覚障がいガイドボランティアサークルあいの会)	吉田 智恵美	
特定非営利活動法人5-CHA(安城市ボランティア連絡協議会)	須場 康貴	B
軽度知的障害を考える会スマイル(安城市ボランティア連絡協議会)	川崎 僚	A

※他、要約筆者2名

2 懇話会の内容

(1) 事前調査の結果概要及び回答について

「令和7年度関係団体等懇話会 事前調査 結果まとめ」について、事務局から説明を行った。回答は事前送付のため読み上げせず、意見の概要や傾向について説明を行った。今後の計画策定の参考とさせていただく。

(2) 意見交換内容(要旨)

ア Aグループ 意見交換

テーマ① 障害福祉への理解を促す啓発活動に関すること

- 精神障害の特性は個別性が高く、一般的な理解が不十分である。学校教育での啓発は進んでいるが、当事者からは発信しにくい。
- 当事者や家族への理解・関係づくりは難しく、周囲の支援や連携が必要である。特別支援学校等についても広く周知を進めるなど、理解促進が求められる。
- 障害福祉分野は人材不足が深刻である。仕事の魅力発信や当事者の就労参加による担い手確保が必要である。
- 重度障害者を支える事業所は当事者の意見等を発信しづらい状況にある。在宅で支援を行う家族等に対して地域全体で支える仕組みが必要である。
- 強度行動障害は周囲から理解されにくく、様々な生活場面での支障が多い。日常的に利用する商店や病院等での理解が必要である。
- 障害者同士でも相互理解が不足している。障害特性の違いへの理解促進が重要である。
- 素直に受け取ることができる子どもの頃からの福祉教育は有効であるが、まだ十分に普及していない。
- 啓発活動は好評であるものの、学校との調整等で継続が困難になっている。啓発活動を担う人においては、大人の偏見解消に向けた意識が重要である。



テーマ② 災害時の避難や避難所、避難訓練に関すること

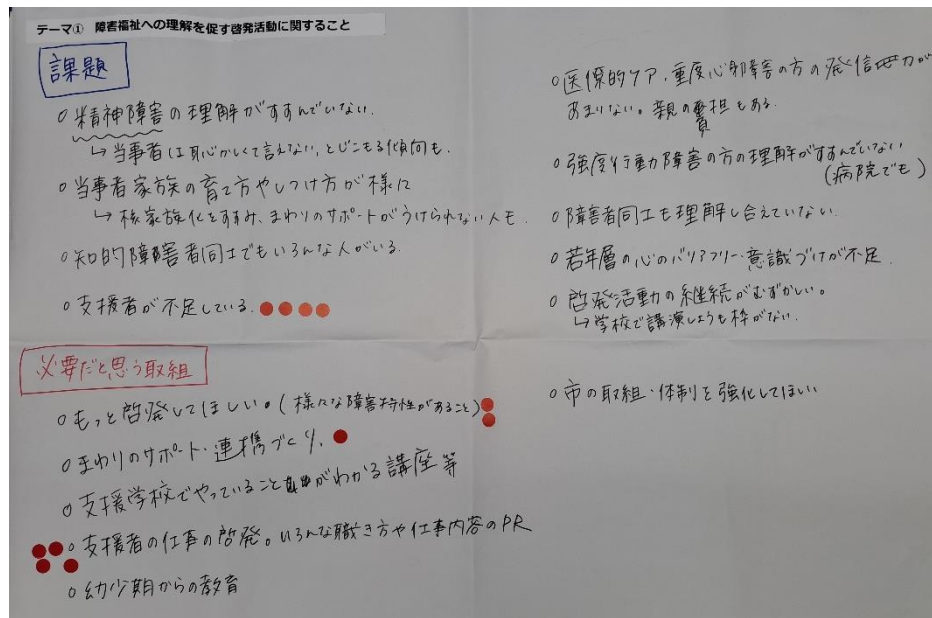
- 避難所のトイレにユニバーサルシートがないことが課題である。トイレ問題が在宅避難につながるため、整備が必要である。
- 旅行者等の被災時の受入れ体制に不安がある。
→指定の避難所に避難してきた人は基本的に誰でも受け入れるため、旅行者なども同様となる。(市回答)
- 公共施設に大人用の介助設備が未整備である。また、災害時に福祉避難所をスムーズに運営するための連携や当事者参加による訓練、避難行動要支援者情報の定期的な更新等が課題である。
→社会福祉課が所管しており、半年おきに更新している。(市回答)
- 福祉施設が災害時に福祉避難所として稼働させることに対し、人員・設備面で限界があり不安が大きい。
- 災害時の利用者対応(施設滞在か帰宅か等)の判断が難しい。当事者参加の避難訓練と、それらの内容を関係機関や団体と共有し、連携していくことが重要である。
- 防災情報の取得方法は防災ラジオ、防災アプリ等があるが、デジタル格差があるなど高齢者等への情報伝達に課題がある。
- 視覚障害者は避難行動自体が困難で、実際の避難に不安がある。
- 避難訓練参加の呼びかけにはプライバシーへの配慮が必要である。また、福祉避難所の環境配慮は安心できると感じた。
- 福祉避難所の運用において、理解されにくい精神障害者への対応は遅れていると感じる。



意見まとめ

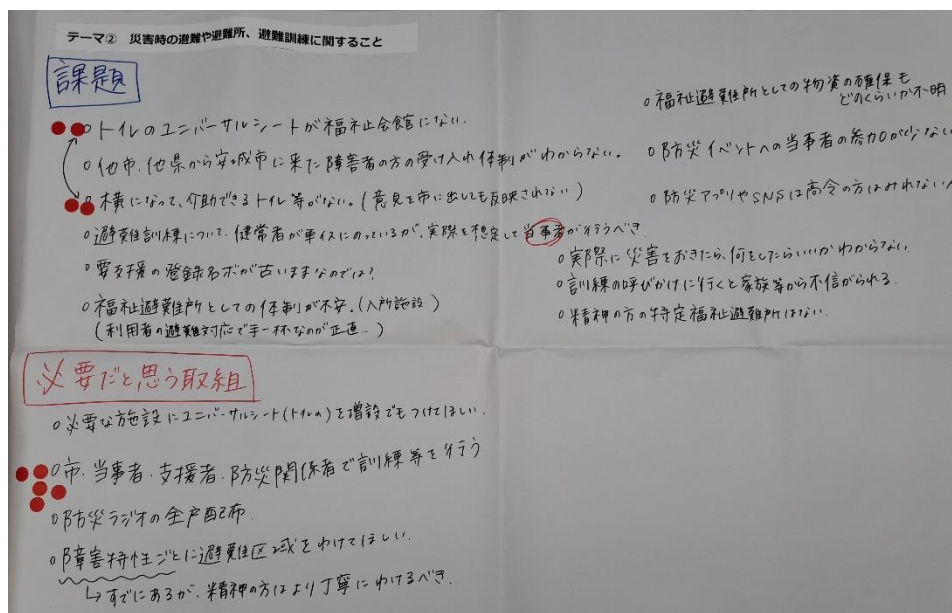
テーマ①障害福祉への理解を促す啓発活動に関すること	
【課題】	【取組】
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の理解が進んでいない ・当事者は恥ずかしくて言えない、閉じこもる傾向も 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと啓発してほしい(様々な障害特性があること)★★★
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者同士でもいろんな人がいる 	
<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害の人の理解が進んでいない(病院などでも) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者同士でも理解し合っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・まわりのサポート、連携づくり★ ・支援学校でやっていることがわかる講座等
<ul style="list-style-type: none"> ・当事者家族の育て方やしつけ方が様々 ・核家族化も進み、まわりのサポートが受けられない人も 	
<ul style="list-style-type: none"> ・支援者が不足している★★★★★ 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者の仕事の啓発・いろんな働き方や仕事内容のPR★★★★★
<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア、重度心身障害者の方の発信があまりない。親の負担もある 	
<ul style="list-style-type: none"> ・若年層のバリアフリー、意識づけが不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少期からの教育
<ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動の継続が難しい。学校で講演したくても枠がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の取組、体制を強化してほしい

★…特に重要だと思うもの



テーマ②災害時の避難や避難所、避難訓練に関すること	
【課題】	【取組】
<ul style="list-style-type: none"> ・トイレのユニバーサルシートが福祉会館にない★★ ・横になって、介助できるトイレ等がない。(意見を市に出しても反映されない)★★ 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な施設にユニバーサルシート(トイレ)を増設してほしい
<ul style="list-style-type: none"> ・他市、他県から安城市にきた障害者の受け入れ体制がわからない 	
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練について、健常者が車いすに乗っているが、実際に想定して当事者が行うべき ・福祉避難所としての物資の確保もどのくらいか不明 	
<ul style="list-style-type: none"> ・防災イベントへの当事者の参加の呼びかけが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・市、当事者、支援者、防災関係者で訓練等を行う★★★★★
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に災害が起きたら、何をしたらいいかわからない 	
<ul style="list-style-type: none"> ・訓練の呼びかけに行くと家族等から不信がられる 	
<ul style="list-style-type: none"> ・要支援の登録名簿が古いままなのでは？ 	
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所としての体制が不安。(入所施設)(利用者の避難対応で手一杯なのが正直。) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・防災アプリや SNS は高齢の方はみられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ラジオの全戸配布
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の方の特定福祉避難所はない 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性ごとに避難区域を分けてほしい。→すでにあるが、精神の方はより丁寧に分けるべき。

★…特に重要だと思うもの



テーマ① 障害福祉への理解を促す啓発活動に関すること

○障害のない人が障害のある人の暮らし等に対し想像力を持つことが重要であるが、想像力だけでなく、障害のある人と一緒に活動するインクルーシブな環境づくりが重要である。



○障害者が積極的に社会に出て、接点を増やすことが必要である。特に子どもの頃からの交流が重要で、教育分野の関与も必要である。

○教育や福祉に関わる人等が障害者と関わる機会が不足していることが課題である。

○共生の理念を地域から広げる必要がある。

○制度が充実してきた一方で、団体間の情報共有や連携が弱まっていると感じる。

○地域において障害者支援に関するボランティアの認知度が低く、周知が必要である。

テーマ② 災害時の避難や避難所、避難訓練に関すること

○個々の障害特性があるため、避難訓練は難しい場合がある。福祉避難所が不足しており、多様な避難手段(車中泊等)の検討が必要である。また、電源確保は重要である。

○福祉事業所の視点では、福祉避難所の運営において災害時の人員確保やBCPの実効性に課題がある。

○訓練で炊き出しを行ったが、人手の少なさを感じた。

○一般避難所では障害者の生活が困難な場合がある。平時からの準備や地域との関係づくりが重要である。

○災害時は障害者の所在把握や連絡が困難になる。在宅避難の準備や地域への周知が必要である。

○実際の災害時には、訓練どおり支援者が近くにいない場合があることを、地域の方に知ってもらう必要がある。

○避難所における聴覚障害者への配慮等についても、訓練しておくことが重要である。

○避難訓練への障害者の参加が大事である。

○市は避難行動要支援者制度の登録などを進めて地域に周知することが大事である。また、避難訓練も継続して実施することが重要である。

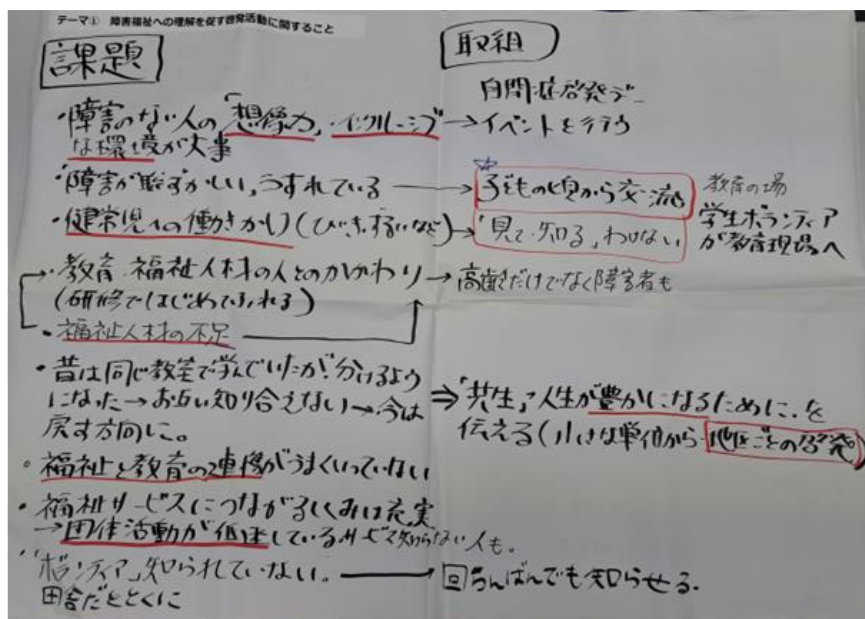
【その他意見】

○駅周辺やトイレなど、公共空間のバリアフリーの未整備が課題であり、改善してほしい。

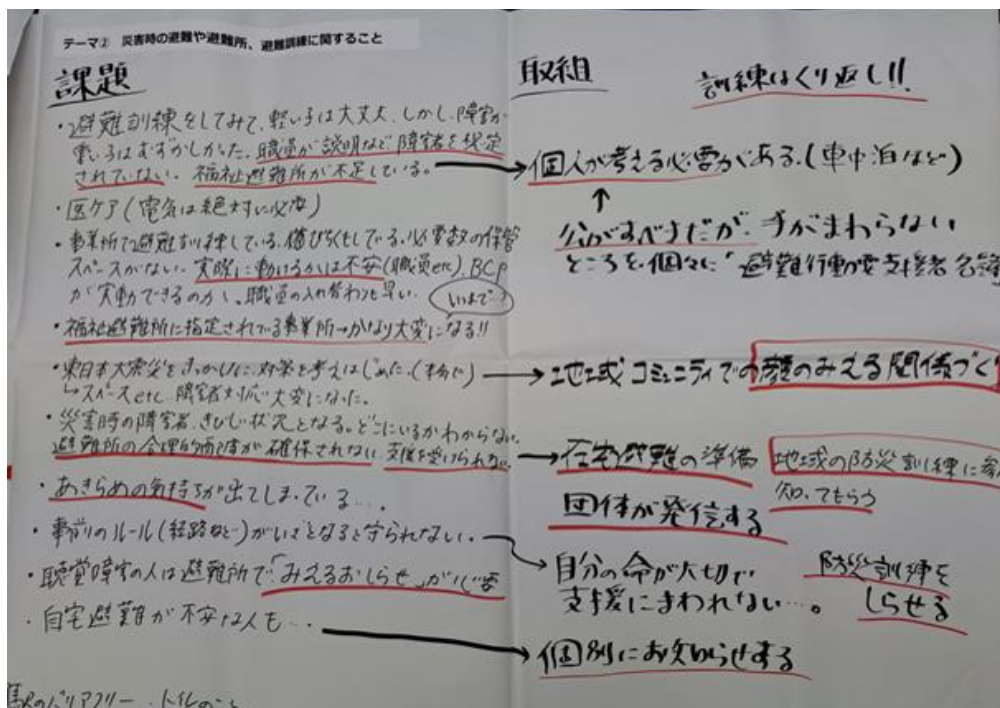


意見まとめ

テーマ①障害福祉への理解を促す啓発活動に関すること	
【課題】	【取組】
・障害のない人の「想像力」・インクルーシブな環境が大事。	・自閉症啓発デーなどにおいてイベントを行う。
・「障害が恥ずかしい」は昔。意識が変化している。 ・健全児が「ずるい・ひいき」などの感情を持つこともある。	・子どもの頃からの交流 ・「見て」「知る」「分けない」 ・(教育の場)学生ボランティアが教育現場へ
・教育・福祉人材の障害者との関わり(研修ではじめてくれる) ・福祉人材の不足	・福祉現場での関わりは高齢者ばかりではなく障害者とも
・昔は同じ教室で学んでいたが、分けるようになった。→お互いに知り合えない→今は再び戻す方向に。	・「共生」は人生が豊かになるためのものである、ということを伝える(小さな単位から・地区ごとの啓発)
・福祉と教育の連携がうまくいっていない ・福祉サービスにつながる仕組みは充実。一方で団体活動の低迷によりサービスを知らない人もいる。	
・ボランティアが知られていない。(田舎では特に)	・回覧板などを使って知らせる。



テーマ②災害時の避難や避難所、避難訓練に関すること	
【課題】	【取組】
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練をしてみて、障害が軽い人は大丈夫、障害の重い人はむずかしかった。職員の説明など、障害者を想定されていない ・福祉避難所が不足している ・医療的ケアのために電気は絶対に必要 	<p>個人が考える必要がある(車中泊など) ↑ 公がすべきだが、手がまわらないところを個々に対応する 避難訓練はくり返し実施する</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業所で避難訓練をしている。備蓄もしているが、必要数の保管スペースがない ・実際に動けるか不安(職員等) ・BCP が実動できるのか。職員の入れ替わりも早い 	
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所に指定されている事業所がかなり大変になる!!(いつまで?) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災をきっかけに、対策を考えはじめた(本気で)→スペース等、障害者対応は大変になった 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティでの顔の見える関係づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の障害者は厳しい状況になる。どこにいるかわからない ・避難所での合理的配慮が確保されない、支援を受けられない ・あきらめの気持ちが出てしまっている… 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅避難の準備 ・地域の防災訓練に参加する、知ってもらう ・団体が発信する
<ul style="list-style-type: none"> ・事前のルール(経路など)がいざとなると守られていない ・自分の命が大切に支援にまわれない… 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を知らせる
<ul style="list-style-type: none"> ・在宅避難が不安な人も… 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別にお知らせする



(3)各グループの発表

グループごとに代表者が意見交換の内容について発表を行い、それぞれの結果を共有した。

